

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092500119		
法人名	株式会社下里福祉		
事業所名(ユニット名)	つつじ園Aユニット		
所在地	和歌山県東牟婁郡那智勝浦町下里770番地		
自己評価作成日	平成28年10月5日	評価結果市町村受理日	平成28年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成28年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食を大切にしてきた時代背景や地域の特性を鑑み、食を中心とした生活リズムと、役割を持つことによる自己効力感への支援を取り入れ、毎日を生き生きと、その人らしく暮らせることを目標にしている。ターミナル支援の機会を重ね、ひとり一人の貴重な生への完成を手伝う喜びと、共に過ごす、永遠ではない時間の大切さを職員は感じ、支援するよう心がけている。職員、入居者共に地域で長年暮らしてきた住民であり、又、その知人から「いつもの散歩コースに我が家の庭を見に来てくれればよい。お茶を用意して待っている。」等の声掛けを戴いたり、畑の野菜を届けてくれるなど、住民からの支援を多く戴いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スタッフ全員笑顔があり、そのことが利用者にも笑顔となって生き生きと生活されている。近隣の利用者が多く、散歩中馴染みの人達との出会う機会が多く、地域の中で生活している環境である。津波避難対策では、誤報であったが、避難情報の発令があり、高台に避難するなど対策を講じている。終末期の取り組みについては、実績もあり、現在も取り組んでいて家族、スタッフ、協力医療機関との協力のもと支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について何度も意識付けを行っている、スタッフ全員が理解できていると思われないが、理念に沿ってスタッフなりに実践している。	理念は、玄関と誰にでも目に付く場所に掲示されており、会議時においても理念について話し合いをしている。ケアする中で理念を確認し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域祭への参加や、近隣の方が訪問し演奏会を開いてくれる。地域の方も参加してもらえるようなイベントも開催している。天気の良い日は近所を散歩し挨拶を交わす。知人にもよく会う。	地域行事の獅子舞の訪問、地元大正琴グループの定期的な発表会、芋祭りの開催、散歩におけるコミュニケーション等地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様と外に出たり、地域の方に来てもらい認知症介護の実際を見てもらいながら、少しの声掛けや支援で今迄と変わりなく暮らせることを、伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議時に報告 相談しアドバイスや協力を得ている。イベントごとや職員研修などにも協力を得ている。	定期的に開催し、事業所の報告、相談、助言と協力をいただいている。地域包括支援センター職員講師による研修も実施している。推進会議の結果は、職員には口頭で報告し、サービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者には、解からないことがあればいつでも連絡し協力を得ている。	担当者には何事においても相談し協力を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人の意思で開閉できない施錠は身体拘束であること 言葉の拘束についても勉強している。	日中は開錠し、夜間のみ施錠している。身体拘束については管理者、職員ともに言葉の拘束も含めて正しく理解しており、常に意識してケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護者本位で仕事をすると虐待につながる事を日々伝えている、職員がゆとりを持ち業務できるように努めている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ全員に学ぶ機会を作る事は、できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な説明を行い、納得していただいた上で入居してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者家族様が、要望などを言いやすいような雰囲気作りや信頼関係作りに、力を入れている。得られた要望などは、会議などで伝えている	家族には面会時において、意見、要望などが言いやすいように信頼関係、雰囲気づくりに努めている。意見や要望などは、会議で報告、検討し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議を定期的に行い発言の場をつくっている スタッフ全員が意見を言いやすい雰囲気にするよう気を付けている。	ユニット会議を定期的に行い、意見を言いやすい雰囲気づくりに努め、意見は反映、実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の希望 休みなど融通を聞きゆとりを持って働けるような雰囲気作りにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年職員の経験や実践状況を考えて実践研修を受講。日々の支援で一人一人にあったケアの方法をその場で伝えて覚えてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者では行っていない。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入段階では、家族様の話をよく聞き相談に乗るようにしている本人にも面接時に相談を聞き安心して頂けるよう努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の訴えを十分に傾聴し介護疲労が強いなど、必要があれば少し距離を置く、または、こまめに報告し様子を伝える。等を行い新しい状況への不安が和らぐよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	数回お試しで泊まってもらい徐々に慣れてもらう。または、家族の協力を得て家族様にも泊まってもらう。いつでも自宅に帰ることができるなど安心してもらえる様努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日々の業務を優先させるのではなく会話を中心に同じ時を過ごし家事や作業も共に行うように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にも本人支援に参加してもらえる様な環境作りに努めている。家族様も協力的に参加してくれる。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に来てもらえる様、色々なイベントを計画しきっかけ作りをしている。その時だけでなく今後も関係が継続できる様支援している。	馴染みの人達が、定期的に発表会を開催してくれている。利用者は近隣の方が多く、地域の人達と芋祭りを毎年開催し、馴染みの関係が途切れないよう関係継続の支援に努めている。理美容については、家族の協力を得ている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ケアプランにコミュニケーションが円滑に行えるように個々の症状に応じた支援方法を反映しているテーブル席に花やお茶を置き自由に語り合える憩いの場とできる環境整備にも力を入れている。	

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援が終了した後も帰省時は園に来てくれ世間話や近状を話してくれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望が言いやすいような雰囲気作りや信頼関係作りに努めている、そこで得た情報は皆で共有し希望に添えるよう努力している。思いを言えない方には好みそうなことを反応を見ながら行っている。	日常関わる中で、希望、意向が言いやすい雰囲気づくりに努め、把握に務めている。意思疎通の困難な方については、色々と情報を伝え、表情を見ながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族様の協力を得て本人が育ち過ごした自宅を見学させてもらいこれまでの暮らしを知ることができた。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態を毎日の申し送りで伝えているノートにも書き皆が共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの中で状態にあったケアを考えて実行し、定期の会議で話し合いケアプランに反映している。また、月に一度モニタリングで状態を確認している。	モニタリングを月一回実施し、情報を確認して介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の書き方をアドバイスし、徐々にではあるが振り返りができる記録になってきている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	規定にとらわれず柔軟に対応できるようにその都度相談に応じている。看取りの経験を積むことで多職種との連携の大切さも感じている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	信仰や趣味、祭など今迄属してきた集団へのつながりや情報提供を受けることで、本人の暮らしを支えてきた所属への支援と意欲や力が発揮できる機会を提供できる様取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔ながらのかかりつけ医や家族、本人希望通りの医療が受けられるよう制限を設けていない。連携し、柔軟な対応が得られるよう主治医から協力いただいている。	かかりつけ医には、月一回のペースで受診している。別の協力医療機関では月一回往診の支援も得ている。受診については、職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと様子が違うときは、直ぐに看護師または主治医に報告し、適切なアドバイスをもったり処置が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族、病院と相談し早期に退院できるように努めている。また、日頃より病院関係者との関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より終末のあり方について希望を聞いており終末期は、何度も希望を聞き主治医を交えて話し合い家族様や本人の希望に添った支援になるよう努めている。	利用時より、本人、家族に希望を聞いて話し合いをしている。今年五件の実績もあり、現在も支援している。協力医療機関とは、二十四時間体制の協力も得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は、できていないが、急変に対して状態観察バイタル測定しすぐに連絡することを日々伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を消防に連絡しておこなっている、また誤報であっても地震速報や津波警報では職員も含め全員が高台へ車で避難する訓練を行っている。	定期的な消火、避難訓練を年二回実施し、ライフジャケットも利用者、職員分も確保している。家族には、事業所の場所についての説明をしている。津波警報(誤報)で高台に避難した。	夜勤帯が職員の人数が少なくなるため、夜間における避難訓練を実施することを期待したい。できれば定期的な訓練を希望する。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を大切にし、その方に合った言葉かけや対応を心がけています。	ひとり一人の尊厳を大切にし、プライドを傷つけないよう支援に努め、傾聴にも努めている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーション、かわりの中で職員に対して気兼ねなく思いを表現でき、また実現できる様努めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人本位の介護であるよう日々伝えている。施設の一日の生活リズムはあるがその時のきもちや体調に配慮し本人のペースで過ごせるよう配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地震で身だしなみを整えたり介助が必要な方には意向を聞いたり情報などから好みに配慮しその人らしい身だしなみになるよう努めている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食を中心とした皆との生活リズムが持てる様自発的に参加できる雰囲気作りの下共に調理したりできる役割をもち楽しく食事できる様努めている。	利用者は盛り付けや配膳をしたりして自発的に参加されている。郷土料理については、自分で料理したり、職員を指導したりと和気あいあいと楽しくされている。食事風景は、職員と共に楽しく家庭的である。誕生会には、利用者も手伝ってもらいケーキを作っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は好みの物を多く盛り食べてもらう。水分も好みの飲み物で無理なくとれている。常にテーブルに茶と湯呑を置き互いに入れあいコミュニケーションにする様子もみられる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし、一人一人に合った介助で行っている。また観察の機会とし異変や、状態の把握をしている。	

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し声掛け誘導をおこなっている、日中布パンに変え過ぎている方もいる	排泄チェックは日誌に記入して一人ひとり排泄パターンを把握し、出来る限りトイレでの排泄支援に努めている。夜間用にポータブルトイレを設置している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や食事形態、日常生活動作の中で少しでも歩行してもらい腸を動かすようにしている。それでも困難な場合は主治医に相談し薬の調整をおこなう。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に添って支援している。意向がうまく言えない方には入浴したくなるような雰囲気作りやタイミングを見て声掛けを行う支援をしている。	入浴は原則週二回と決めてはいるが、希望があれば毎日でも可能となっている。入浴を拒否する利用者には、タイミングと入浴したくなるような気分の状況を作りながら入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が休みたいときに休んでもらう、安心して休めるように、その時の状況に合わせて環境整備を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配役服薬表を作り、誤薬を防止するよう努めている。状態観察し、受診時主治医に報告し薬の調整をおこなっている、		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブや買い物、散歩や生け花などこれまで本人が好んだ情報を活かし気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近所を散歩したり希望があれば希望に添い支援している、家族様にも協力してもらい自宅や親戚、知人宅へ出かけることもある。	全体的にドライブが好きで、時として遠方に出かけ気分転換を図っている。又、天気の良い日は近隣を散歩し、近くの人達とコミュニケーションを取っているなど外出支援をしている。家族にも外出支援の協力をいただいている。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持や使うことについて説明の上、家族に判断を委ねている。希望時は立替し買い物出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも家族と連絡が取りあえる様携帯電話を、持っている方もおられる、希望時は職員の介助で電話を掛けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度湿度の調整換気などをこまめに行う不快な物音に気をつけるなど落ち着いて過ごせるよう配慮している。季節の花を活けてもらい飾る等工夫している。	きれいに掃除され、清潔にされている。ローカには飾り付けもあり、ボードには今日の日付もあり、テレビの音量も程よく、窓から見える景色も良く、共用空間は明るく、居心地の良い空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席とは別にテレビ前にソファーなどを置き気の合った人同士が過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇を持参し置いている、居室内で自由に歩けるように家具の配置も調節し居心地がよくなるように支援している。	居室には仏壇、家族の写真等馴染みの深い品物が置いてあり、居心地よく安心して過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等の場所が解かり易いようにしている 移動が自分で行えるように家具の置き方など環境整備も工夫している。		